



■ フルーツショップのざか 取材風景

# もりおか社会起業通信 No.10

## ■■ CONTENTS ■■■■

### ■ 活動内容

- ・肴町商店街の新たな魅力を発見しよう！  
肴町商店街ニーズ調査の様子 他
- ・第3回トークサロン  
『岩手でビジネスを考える』

### ■ 今号のコラム

『超少子高齢化時代の  
〈仮想〉就労のカタチ』



肴町商店街の新たな魅力発見を目的に、地域密着型の活動を行う肴町商店街と地域コミュニティ活性化を目指し活動している当団体が連携し、商店街の新たな魅力発見のためのアンケート調査を実施。若年層にも街づくりに興味を持ってもらおうと、今回は、盛岡情報ビジネス専門学校にご協力いただき、肴町商店街商圏エリアのニーズ調査を行いました。



【実施協力】 肴町商店街振興組合、盛岡情報ビジネス専門学校

【詳細】 肴町周辺ニーズ調査結果報告

- 肴町周辺ニーズ調査 **979人** (肴町周辺9カ所)
- 店舗調査(肴町商店街振興組合組合員) **37**店舗
- 若年層ニーズ調査 **84人**  
(盛岡情報ビジネス専門学校生)
- 起業家ニーズ調査(盛岡市内、近隣市町村) **25人**

肴町商店街は、全国でも珍しく空き店舗が少ない商店街で、商店街の魅力の根源は「個店の魅力」にあります。

肴町商店街振興組合の皆様や同商店街の若き後継者集団肴町商店街振興組合青年部会「4S会」が一丸となって、魅力ある個店づくりを進めながら、新たなイベントの企画や来街促進につながる情報の発信を展開しています。

調査実施日は、学生が100人以上参加し、数カ所のエリアに分かれ根気よく声掛けして調査しました。

ご協力いただいた店舗にもお邪魔して、現在の店舗の状況も伺い、肴町には創業100年を超える歴史をもつ『盛岡の顔』ともいえる老舗が多数存在していることを知り、改めて肴町商店街の『他にない魅力』を肌で感じる事ができたようです。



## ■ 肴町周辺ニーズ調査報告及び意見交換会開催

肴町周辺住民のニーズ調査の結果をもとに、下記内容で意見交換会を開催しました。様々な立場の方にご参加いただき、肴町の新たな魅力発見の話合いがなされました。

【実施内容】 肴町周辺ニーズ調査報告・意見交換会

【日程】 平成26年10月29日(水)

【参加者】 23名

- ・肴町商店街振興組合青年部会(2名)
- ・商店街店舗(2名)      ・市内起業家(3名)
- ・まちづくり団体(2名)      ・行政職員(2名)
- ・盛岡情報ビジネス専門学校(8名)      ・事務局(4名)



第3回 トークサロン  
岩手でビジネスを考える

【日程】 平成26年9月10日(水)  
【場所】 盛岡情報ビジネス専門学校内  
【参加者】 113名

第3回の講師は・・・

株式会社g・plus 代表取締役 **伊藤 敬氏**

20歳でイベント・広告制作会社に就職し30歳で独立。  
フリーで活動後33歳で法人化。  
地元貢献で厚い信用を受ける会社経営を心がけている。



Coaching Office 代表 **平野 順子氏**

直接人と関わる仕事がしたくて、コーチ養成機関であるCoach21、PHP研究所で体系的にコーチングを学び、現在はプロコーチとして県内外で活躍中。

【聞き手】 株式会社ラチオもりおか 取締役 営業制作部部长 **吉田 広宇氏**

今回で3回目となるトークサロン。若手社会起業家と触れ合う場を設けることで、県内で活躍している社会起業家の認知度を高めるとともに、若者が地域の課題解決に目を向け、『働くこと』や『起業』に関心を持つきっかけづくりになり、就職するという選択肢だけではなく、岩手を盛り上げようと『起業』する学生が増える、単なる仕事ではなく『自分磨きの為に働く』など、若年層への意識改革が見られることを期待して開催しております。

今回は、盛岡情報ビジネス専門学校の授業に取り入れていただく形で実施。参加学生に対して、実施の事前・事後にアンケート調査を行った結果、『働く』ことや『起業』についての意識の変化が多数見られました。



働くことについての考え

実施前

- 働かないと親が悲しむから
- ニートや引きこもりと言われたくないから
- 生活をするために働く
- 働くことにより社会の一員として人々の生活を支えることができる

実施後

考えが変わった:55%

- 働くのが当たり前と思っていたので、あまり前向きな気持ちではなかったが、やりがいを探してみると楽しいのかもと思った
- ただ働くだけでなく先を見て働きたいと思った
- 人と違う事を恐れたりするのではなく、楽しむ事が大事だと思った

起業に対するイメージや関心

実施前

関心度:18%

- あまり考えたことがない
- とてもお金がかかるのでは…
- ギャンブルの様なイメージ
- 起業は、ハイリスク・ハイリターンだと思う
- 簡単にできることではなさそう

実施後

関心度:57%

- 初めは起業なんて考えすらなかった。こういう仕事の仕方もあるのかと思った
- チャレンジする気持ちが大切だと思った
- 起業=自由業という言葉に印象を受けた
- 身近に感じることができ、考えてみようと思った

## 超少子高齢化時代の〈仮想〉就労のカタチ

2040年、テツオ。24歳。無職。

大通をぶらついてきたテツオは、携帯型の端末を見て「ったく…なんだよ…」と吐き捨てた。かつて賑わいのあったこの街は、テツオのような若者がたむろするだけの灰色がかったゾーンになっていた。端末の画面にはユタカからのメッセージ。ユタカとは政府が管掌する「北日本地域再生機構」への就職を共に目指した仲だった。「元気か？おまえに話がある。18時にウチに来い。」

1年ほど前、就活中は夢を語り合い、地元に残って愛するこの街を蘇らせるんだと息巻いていた二人。しかし、就活の明暗がそのまま人生の色を決めてしまったかのように、テツオは敗北感と喪失感、無力感に包まれていた。10カ月はユタカに会っていない。不意に飛び込んできた文字に、テツオの気持ちはさらに沈んだ。

この地域は河南エリアに65歳以上の低所得者が住み、河北エリアに45歳以下の無職者、富裕層は大型ヘリポートのある玉山エリアに住み分けされている。市の人口は25万人弱。構成の半数以上は60歳以上だ。県としては100万人を割り込んでいる。40代の労働意欲は特に低く、中年引きこもりが社会問題になり治安は悪化。生活保護、年金、医療、治安維持など公的なサービスは破綻。「小さな政府」の傾向は年を追うごとに加速し、2極化を生む弱肉強食の社会が20年足らずでできあがった。意欲ある若者の大半は東京を目指す。そんな時勢にあってテツオやユタカの存在は地方にとって貴重だ。

約束の10分前、テツオはユタカの家の前にはいた。背中から声がした。「まあ、上がれよ」。久しぶりに見るユタカの顔からは以前と変わらない笑顔があった。かつて時間を忘れて過ごした部屋に入ると「お前、社長やらないか？」とユタカが切り出した。続けてテツオが得意だったマーケティングの技術と、イベント制作能力、同世代を引き付ける魅力を活かして、地域活性化のプランニング会社を立ち上げようと熱っぽく語った。さらに助成金をカットした代わりに、金融機関へ低率の起業家融資枠の大幅増加を打ち出し、一定量の貸付義務を課したという政策の説明もした。テツオは熱意を呼び覚まし、ユタカの話の前めりで聴いていた。起業家への道に一步踏み込んだ――。

起業がやる気ある若者の受け皿になれば未来の地方を救うかも、という想像の世界。若者の独立心と興味のアンテナを育むことが急務だと考える今日この頃です。

株式会社ラチオもりおか 取締役 営業制作部部长

吉田 広宇

### 社会起業家支援事業

特定非営利活動法人アイディングでは、平成24年4月より、地域や社会の課題解決の為に起業した『社会起業家』の皆様の中間支援事業を行っております。お役にたつ情報の提供や研修会・情報交換会の開催などを実施しながら、行政や企業、NPO、市民などのネットワーク拡大を目指し、皆様のお役に立つことができるよう活動して参ります。

### 発行元

特定非営利活動法人 **アイディング**  
社会起業家支援事業部

〒020-0861 盛岡市仙北2-4-12  
【TEL】019-636-3630 【fax】019-635-9601  
【E-mail】ses@iding.org  
【URL】<http://www.iding.org/syakaikigyouka>